

SCS評価制度における要求事項と中堅・中小企業のセキュリティ課題/ニーズの照合

調査設計/分析/執筆: 岩上由高

ノークリサーチ（本社〒160-0022東京都新宿区新宿2-13-10武蔵野ビル5階23号室 代表：伊嶋謙二 TEL：03-5361-7880
URL：www.norkresearch.co.jp）は経産省/IPAが主導するSCS評価制度の要求事項（「3つ星」26項目、「4つ星」43項目）とユーザ企業の課題/ニーズを照合し、IT企業がSCS評価制度を踏まえたセキュリティ、運用管理、バックアップの製品/サービス導入を促進するための分析結果を発表した。本リリースは「2025年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート増補版」のサンプル/ダイジェストである。

<SCS評価制度の要求事項と照合した課題/ニーズを訴求すれば、ツール導入率は大幅に高まる>

- SCS評価制度に伴うセキュリティ/運用管理/バックアップの導入提案では「優先度」が重要
- 要求事項(満たすべき条件や実践すべき取り組み)は「3つ星」で26項目、「4つ星」で43項目
- ユーザ企業の課題/ニーズと要求事項が両立&連動した提案方法を年商別・業種別に網羅

SCS評価制度に伴うセキュリティ/運用管理/バックアップの導入提案では「優先度」が重要

2026年度末(2027年1～3月頃)からは経産省やIPAが主導する『サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度(SCS評価制度)』の「3つ星」および「4つ星」の申請受付開始が予定されている。サプライチェーンを構成する中堅・中小企業がこれら2つの認定レベルのいずれかを取得することは、取引先の信頼を獲得/維持する上でも不可避となってくる。

認定を取得する過程でセキュリティ/運用管理/バックアップを担うツールを新たに導入する必要性が生じるケースも少なくないと予想されるため、ベンダや販社/Sierにとっては製品/サービスの訴求機会となる。だが、SCS評価制度で求められる要求事項(満たすべき条件や実践すべき取り組み)は「3つ星」で計26項目、「4つ星」で計43項目と多岐に渡るため、ベンダや販社/Sierから見ると、「ツール導入で対応すべき項目と運用ルールでカバーすべき項目の優先度付けをどう判断するか？」が難しい。

その一方で、ノークリサーチの「2025年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート」(※)では有効回答1300社のユーザ企業を対象にセキュリティ/運用管理/バックアップの課題やニーズを詳細に集計/分析している。

そこで、本リリースの元となる調査レポートでは(※)の増補版として、SCS評価制度の要求事項とユーザ企業の課題/ニーズを照合している。これによって、ベンダや販社/Sierはユーザ企業に対して「***という課題/ニーズはSCS評価制度においても要求事項***として明記されているので、ツールを導入して優先的に対処していきましょう」といった提案が可能となる。ユーザ企業としても、自社の課題やニーズに該当する要求事項から優先的に対応することでSCS評価制度への取り組みを前向きに進めることができる。

本リリースの元となる調査レポートの分析/提言ポイント

SCS評価制度の要求事項

3つ星の場合：計26項目
4つ星の場合：計43項目

照合

有効回答1300社の調査データ

セキュリティ/運用管理/バックアップ
における課題およびニーズ

SCS評価制度の要求事項に該当し、かつユーザ企業も重視する課題/ニーズ

||

新たなツール導入が期待できるセキュリティ/運用管理/バックアップの課題/ニーズ

次頁以降では、(※)の調査レポートに上記で述べた新たな集計/分析を加えた増補版レポート「2025年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート増補版」の中から、SCS評価制度に関する解説および集計/分析の一部をサンプル/ダイジェストとして紹介している。

要求事項(満たすべき条件や実践すべき取り組み)は「3つ星」で26項目、「4つ星」で43項目

経産省やIPAが主導するセキュリティ対策レベルの評価には「SCS評価制度」の前段階となる「SECURITY ACTION」も含めて「1つ星」～「5つ星」の5つの段階が設定されている。(セキュリティ対策レベルの全体像は下記の関連リリース2ページを参照 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025Sec_user_relex.pdf)

その中でサプライチェーンを構成する中堅・中小企業が深く関連するのが、以下に整理した「SCS評価制度」の「3つ星」「4つ星」である。(「<https://www.ipa.go.jp/security/scs/requirements-criteria.html> 2026年4月21日更新版」を元にノークリサーチにて作成)

SCS評価制度で求められる要求事項は「3つ星」では以下の表でマルの付いた26項目、「4つ星」は以下の表に列挙した43項目全てが対象となる。「3つ星」にマルが付いており、「4つ星」に付いていない項目は「3つ星」の内容がそのまま「4つ星」にも適用される。「3つ星」と「4つ星」の双方にマルが付いている項目は同じ要求事項でも「3つ星」と「4つ星」で評価基準が異なってくる。

大分類	中分類	要求事項No.	要求事項名	3つ星	4つ星
ガバナンスの整備	組織の状況	1-1-1	社内ルール		○
	役割、責任、権限	1-2-1	セキュリティ推進活動部門	○	○
		1-2-2	サイバー攻撃の監視・分析体制		○
		1-2-3	守秘義務のルール	○	○
	ポリシー監督	1-3-1	セキュリティ対応方針の策定	○	○
取引先管理	サイバーセキュリティサプライチェーンリスクマネジメント	1-4-1	セキュリティ対策推進計画		○
		2-1-1	取引先とのビジネス又はシステム上の関係	○	○
		2-1-2	機密情報の取扱い	○	
		2-1-3	取引先のセキュリティ対策状況		○
		2-1-4	セキュリティインシデント発生時の役割・責任	○	
リスクの特定	資産管理	2-1-5	機密情報の回収・破棄		○
		3-1-1	情報機器、OS及びソフトウェアに関する情報の把握	○	○
		3-1-2	ネットワークに関する情報の把握	○	○
		3-1-3	外部情報サービスの管理	○	
		3-1-4	機密区分に応じた情報の管理	○	○
		3-1-5	リモートワークにおけるルール		○
	リスクアセスメント	3-2-1	脆弱性の管理体制		○
攻撃等の防御	アイデンティティ管理、認証、アクセス制御	4-1-1	ユーザIDの管理手続	○	
		4-1-2	管理者IDの管理手続	○	
		4-1-3	認証の強度・実装方法の決定		○
		4-1-4	アカウントロック制御	○	
		4-1-5	パスワード設定ルール	○	
		4-1-6	パスワード管理ルール	○	
		4-1-7	アクセス権の管理ルール	○	○
		4-1-8	サーバ設置エリアへの入退室管理		○
		4-1-9	可搬媒体の制限		○
	意識向上とトレーニング	4-2-1	セキュリティの意識向上のための教育・研修		○
		4-2-2	セキュリティインシデント発生時の教育・訓練	○	
	データセキュリティ	4-3-1	データの暗号化		○
		4-3-2	データの保管ルール		○
		4-3-3	取引先との情報共有ルール		○
	プラットフォームセキュリティ	4-3-4	適切なバックアップ	○	
		4-4-1	情報機器、OS及びソフトウェアの安全な構成	○	○
		4-4-2	サポート期限の切れたOS及びソフトウェアへの対策		○
		4-4-3	ログの取得		○
		4-4-4	セキュリティパッチ・アップデートの手続	○	○
攻撃等の検知	技術インフラのレジリエンス	4-4-5	マルウェア感染からの保護	○	○
		4-5-1	ネットワーク境界防護	○	○
	継続的監視	5-1-1	ネットワーク接続・データの監視	○	
		5-1-2	情報機器及びソフトウェアの挙動監視		○
インシデントへの対応	有害事象の分析	5-2-1	セキュリティインシデントのレベルごとの対象範囲		○
		6-1-1	インシデント対応手順	○	
インシデントからの復旧	インシデント復旧計画の実行	7-1-1	事業継続要件に沿った復旧準備	○	○

出典: 「<https://www.ipa.go.jp/security/scs/requirements-criteria.html> 2026年4月21日更新版」を元にノークリサーチにて作成

例えば、大分類「取引先管理」、中分類「サイバーセキュリティサプライチェーンリスクマネジメント」の要求事項「2-1-2. 機密情報の取扱い」は上記の表で「3つ星」のみにマルが付いている。この要求事項では、機密情報の取り扱い方法を自社と共有先の間で明確にすることが求められており、「3つ星」と「4つ星」の双方が該当する。

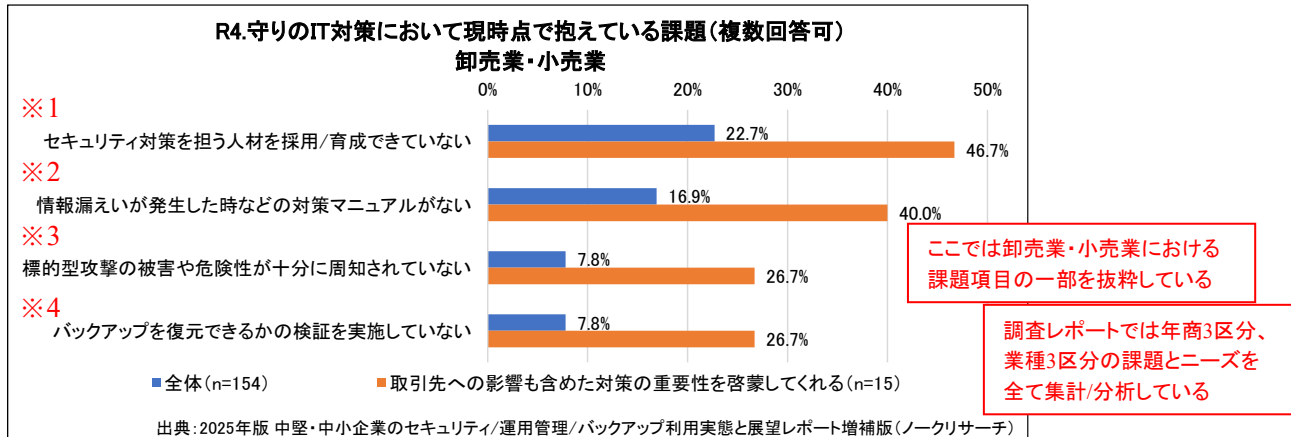
一方、大分類「ガバナンスの整備」、中分類「役割、責任、権限」の「1-2-1. セキュリティ推進活動部門」は上記の表で「3つ星」と「4つ星」の双方にマルが付いている。この場合、「3つ星」ではセキュリティを統括する役員およびセキュリティ担当部署の役割/責任の明確化が求められるが、「4つ星」ではそれらに加えてセキュリティリスクへの対応について経営層が参加して経営判断を行う体制(情報セキュリティ委員会など)の設置が求められてくる。

次頁では上記の表に列挙されたSCS評価制度の要求事項をユーザ企業の課題/ニーズと照合した分析例を紹介していく。

ユーザ企業の課題/ニーズと要求事項が両立&連動した提案方法を年商別・業種別に網羅

本リリースの元となる調査レポートでは、セキュリティ/運用管理/バックアップの課題およびニーズを各々20項目超の選択肢を列挙して分析している。(項目一覧は右記の関連リリースを参照 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025Sec_user_relex.pdf)

さらに上記の分析は中堅・中小企業全体だけでなく、年商別(小規模企業、中小企業、中堅企業)と業種別(製造業・建設業、卸売業・小売業、運輸業・サービス業)にも実施している。ベンダや販社/SIerがSCS評価制度を契機として製品/サービス導入を訴求する際には、まず「SCS評価制度に関連する課題/ニーズは何か?」を把握する必要がある。そこで、調査レポートでは今後のニーズとして「取引先への影響も含めた対策の重要性を啓蒙してくれる」という項目に挙げたユーザ企業(=今後SCS評価制度に取り組むと予想されるユーザ企業)において全体平均と比べて回答割合の高い課題/ニーズは何か?を明らかにしている。例えば、以下のグラフは製造業・建設業においてSCS評価制度に関連する課題項目の一部を抜粋したものだ。



さらに、調査レポートでは課題/ニーズに対応するSCS評価制度における要求事項は何か?を明らかにしている。以下は上記のグラフに記載した課題項目に対応する要求事項を列挙したものだ。(以下では青太字が大分類、緑太字が中分類を示している)

課題	大分類	中分類	要求事項
※1	⇒ 「ガバナンスの整備」	「役割、責任、権限」	1-2-1. セキュリティ推進活動部門(3つ星、4つ星)
※2	⇒ 「インシデントへの対応」	「インシデント管理」	6-1-1. インシデント対応手順(3つ星)
※3	⇒ 「攻撃等の防御」	「意識向上とトレーニング」	4-2-1. セキュリティの意識向上のための教育・研修(4つ星)
※4	⇒ 「攻撃等の防御」	「データセキュリティ」	4-3-4. 適切なバックアップ(3つ星)

※1の課題が示すように中堅・中小企業がCISO(Chief Information Security Officer)を採用/育成することは容易ではない。だが、要求事項1-2-1では「3つ星」においてもセキュリティを統括する役員とセキュリティ担当部署の役割/責任の明確化が求められている。したがって、今後はIT企業がCISO相当の人材を派遣する動きなどが活発になる可能性もある。

サプライチェーンへのマルウェア被害拡大を防ぐためには、要求事項6-1-1が求めるインシデント対応手順の整備も欠かせない。だが、※2の課題が示すように中堅・中小企業では対策マニュアルの必要性を感じていても、それを実践できないケースも多い。要求事項6-1-1を満たしたインシデント対応手順のテンプレートを提供できれば、IT企業側としては大きな差別化ポイントとなる。

※3の課題に対しては要求事項4-2-1(4つ星)が求める教育や研修が有効だ。ここで注意すべき点は関連する要求事項「4-2-2. セキュリティインシデント発生時の教育・訓練」が3つ星であることだ。つまり、より多くの中堅・中小企業が該当すると予想される「3つ星」に対しては、マルウェア感染の予防に寄与する4-2-1よりもインシデント発生時の対処である4-2-2が優先されていることになる。こうした点にサプライチェーンを介したマルウェア被害の拡大を防止するというSCS評価制度の基本思想が表れている。

また、※4の課題に対応する要求事項4-3-4では「バックアップ対象ごとのリストア手順の整備」が求められているが、リストアの検証までは明記されていない。だが、ランサムウェア被害が増加する昨今の状況を踏まえると、保護されたバックアップデータを確実にリストアできる手段を日頃から確認しておくことが大切だ。IT企業としては要求事項4-3-4の内容に留まらず、ランサムウェア被害を想定したバックアップ/リストアの手段を提案していく役割が求められてくる。

ここでは卸売業・小売業に関する分析のごく一部を抜粋したが、調査レポートでは年商別/業種別に上記のような分析と提言を詳しく述べている。(次頁では調査レポートの案内を掲載)

本リリースの元となる調査レポート

『2025年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート増補版』

本調査レポートは本ページ下段に記載した通常版の調査レポートに以下の集計/分析を加えた内容となっています。

年商3区分と業種3区分の計6区分について、「取引先への影響を考慮したセキュリティ対策への意識が高いユーザ企業」において回答割合が高い課題(以下のR4)とニーズ(以下のR5)を集計。さらにそれらの課題/ニーズに対応するSCS評価制度の要求事項は何か?を解説。SCS評価制度とユーザ企業の課題/ニーズを両立&連動させた提案方法を提言。

- ・R4.守りのIT対策において現時点で抱えている課題(複数回答可)
- ・R5.守りのIT対策の製品/サービスが今後持つべきと考える機能や特徴(複数回答可)

年商区分:

小規模企業: 年商5億円未満
 中小企業: 年商5億円以上～50億円未満
 中堅企業: 年商50億円以上～500億円未満

業種区分:

製造業・建設業: 組立製造、加工製造(プロセス製造)、建築、土木、設備など
 卸売業・小売業: 商品の卸売(商社、仲介など)、小売(スーパー、専門店など)
 運輸業・サービス業: 運輸(トラック運送、倉庫など)および各種のサービス業

【調査レポートの収録内容】

第0章: 本調査レポートの背景

第1章: SCS評価制度の概略

第2章: SCS評価制度とユーザ企業が抱える課題の関係

- 2-1. 中堅・中小企業全体の課題傾向
- 2-2. 小規模企業層における課題傾向
- 2-3. 中小企業層における課題傾向
- 2-4. 中堅企業層における課題傾向
- 2-5. 製造業・建設業における課題傾向
- 2-6. 卸売業・小売業における課題傾向
- 2-7. 運輸業・サービス業における課題傾向

第3章: SCS評価制度とユーザ企業が考える今後の
ニーズとの関係

- 3-1. 中堅・中小企業全体のニーズ傾向
- 3-2. 小規模企業層におけるニーズ傾向
- 3-3. 中小企業層におけるニーズ傾向
- 3-4. 中堅企業層におけるニーズ傾向
- 3-5. 製造業・建設業におけるニーズ傾向
- 3-6. 卸売業・小売業におけるニーズ傾向
- 3-7. 運輸業・サービス業におけるニーズ傾向

価格: 270,000円(税別) 通常版をご購入済みの場合は45,000円(税別)で増補版収録分を追加購入可

発刊日: 2026年7月31日

通常版『2025年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート』

【調査レポートの収録内容】

本調査レポートは調査結果の要点と提言を記載した「分析サマリ」(PDF形式)と多数の集計データ(Microsoft Excel形式)で構成されている。分析サマリの章構成は以下の通りであり、中堅・中小企業における守りのIT対策(セキュリティ/運用管理/バックアップ)に関する実態を網羅した内容となっている

- 第1章: 守りのIT対策の実施状況における変化
- 第2章: 守りのIT対策における評価/満足の変化と最新動向
- 第3章: 守りのIT対策における課題の変化と最新動向
- 第4章: 守りのIT対策におけるニーズの変化と最新動向
- 第5章: 守りのIT対策の開発元(ベンダ)の導入社数シェア変化
- 第6章: 守りのIT対策における費用

更に詳細な調査レポート案内(サンプル属性、設問項目一覧、集計データ例、試読版など)を以下にてご覧いただけます

調査レポート案内: https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025Sec_user_rep.pdf

次頁以降では、ご好評いただいている既刊の調査レポートは各種サービスをご案内しています

ご好評いただいている既刊の調査レポート(1/2):

2026年版 中堅・中小企業におけるERPのリプレイス/新規導入を促進する要因と市場規模予測レポート

年商別(小規模企業/中小企業/中堅企業)と業種別(製造業・建設業、卸売業・小売業、運輸業・サービス業)にERPのリプレイスや新規導入につながるユーザ企業の重視事項、課題、ニーズは何か?を分析&提言。

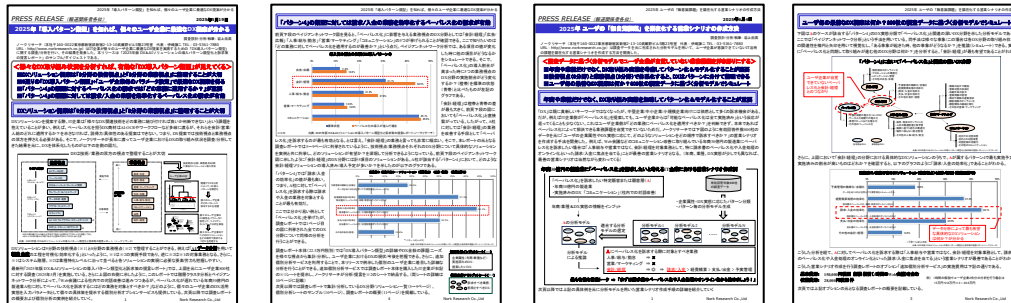
【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026ERPBN_rell.pdf



2025年版 DX & AIソリューションの導入パターン類型化と訴求策の提言レポート

DXソリューションを技術視点(9分野/48項目)&業務視点(8分野/38項目)に基づく導入パターン類型に整理し、個別分析サービス(オプション)による個々のユーザ企業向けDX提案の施策/提言までカバーした次世代型の調査レポート。生成AIのサービスシェア、適用場面、ユーザ企業の課題/ニーズ、導入費用も網羅。

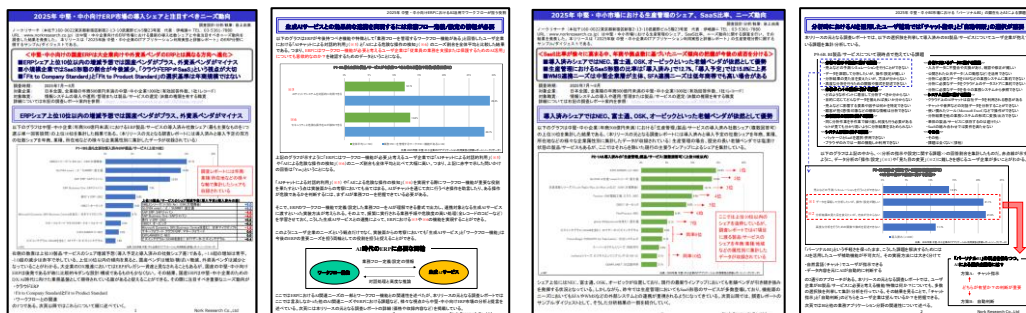
【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DXAI_user_rep.pdf



2025年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート

ERP、会計、販売、人事給与、グループウェア、CRM、BIなど計10分野に渡る業務アプリケーションの導入済み/導入予定の社数シェア、導入年、運用形態(オンプレミス/クラウド)、課題、ニーズを年商別や業種別などの多角的な視点から集計/分析

【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025itapp_rep.pdf

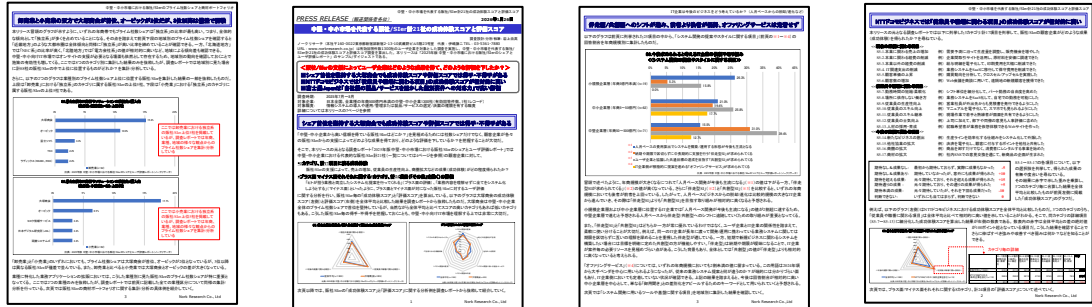


ご好評いただいている既刊の調査レポート(2/2):

2025年版 中堅・中小市場における販社/SIerのシェアとユーザ評価レポート

中堅・中小市場で注目すべき販社/SIerの導入社数シェア(年商別/業種別/地域別)、商材ポートフォリオ、顧客企業が得た成功体験、顧客企業から見たプラス/マイナス評価を集計/分析、さらにAI活用、ユーザ内製、伴走型SI/共創型SIへのシフトなどに関するIT企業側の実態と考え方も網羅。

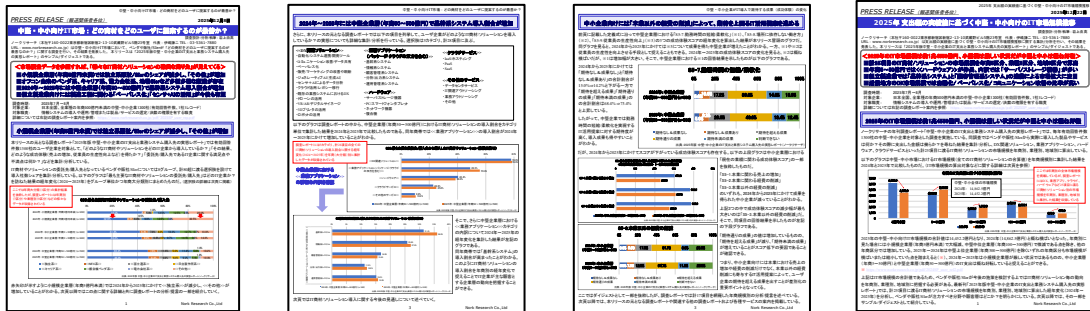
【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025SIer_user_rep.pdf



2025年版 中堅・中小企業のIT支出と業務システム購入先の実態レポート

中堅・中小企業は「どんなIT商材/ソリューションをどのIT企業から導入するのか?」「それで得られた成功体験(売上増、従業員の生産性向上など)は何か?」「委託先/購入先のIT企業に関する満足点や不満点は何か?」を集計/分析し、今後有望なIT商材/ソリューションやユーザ企業セグメント(年商や業種)を提言

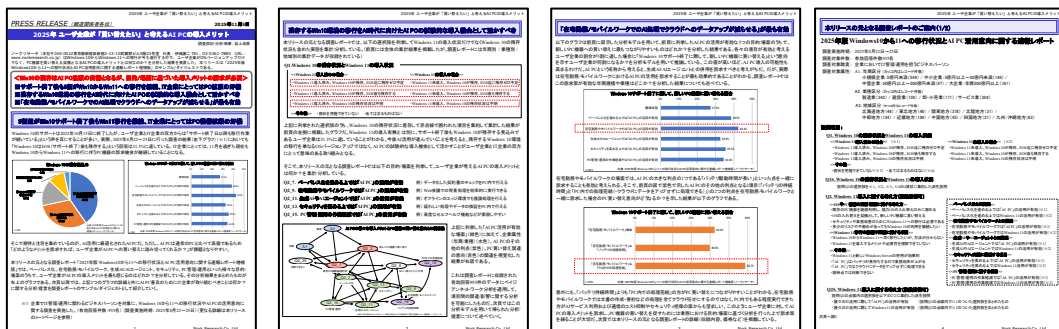
【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025SP_user_rep.pdf



2025年版 Windows10から11への移行状況とAI PC活用意向に関する速報レポート増補版

セキュリティ対策のためのOS刷新だけでなく、AI PCのメリットを活かしたポジティブなPC環境を提案するための施策を提言

【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025PCflash_relex.pdf



各種の関連サービス

入力された企画案や販促アピールを元に、ノークリサーチの市場調査データや知見が盛り込まれたPPTX資料を自動生成

AI×市場データ:プレゼン資料生成サービス

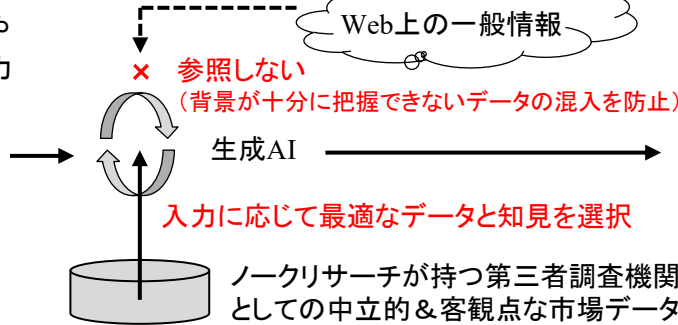
製品/サービスの企画案や
アピールをブラウザで入力

AI×市場データ:プレゼン資料生成サービス

製品/サービスの企画案や
アピールをブラウザで入力

製品/サービスの企画案や
アピールをブラウザで入力

製品/サービスの企画案や
アピールをブラウザで入力



市場調査のデータや知見を元に
製品/サービスが注力すべき点や
効果的なアピールをPPTX / PDF
形式のプレゼン資料として提示



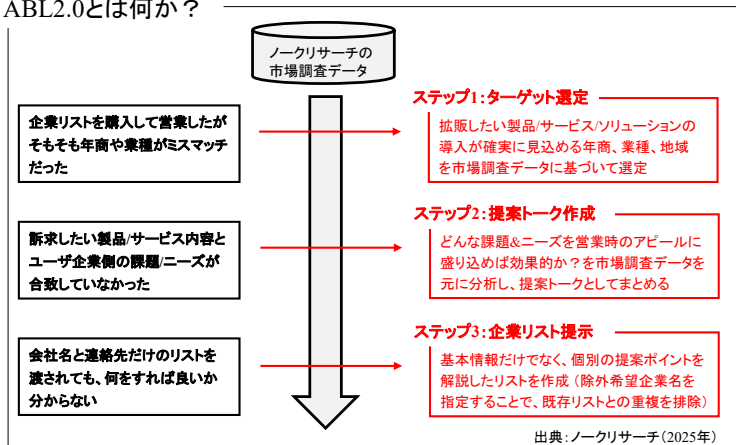
詳しいご案内については、右記をご参照ください
サービスの活用例紹介:

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/pmc_service.pdf

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026pmc_rel3.pdf

市場調査データを元にターゲット選定/提案トーク作成/企業リスト提示を行う『ABL2.0』

ABL2.0とは何か?



サービス案内と実施の具体例を以下でご覧いただけます。

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025ABL20_rel.pdf

ターゲットに沿った提案トークを含む企業リストの具体例

企業名	株式会社DEスタイル
設立年	1964年
資本金	5億円
売上高	45億円(2025年1月期)
決算月	1月
従業員数	436名(2025年2月現在)
上場有無	未上場
所在地	大阪府大阪市**区**町 1-1-1
ホームページ	https://www.destyle.**.**.***
メールアドレス	info@destyle.**.***
Webフォーム	https://www.destyle.**.***/contact.html
電話番号	06-****-****
業態と特徴	衣料素材の卸問屋として創業し、近年ではアパレルの企画/開発/生産/販売を一気通貫で担うビジネスを展開。試作品段階では3Dモデリングを積極的に活用するなど、DXやSDGsに対する意識が高い。 参照ページ: https://www.destyle.**.***/profile.html
提案時のポイント	「AI需要予測を用いた在庫管理ソリューション」の提案トーク解決が有効な課題: C.1: 仕入先の倒産リスク C.2: 勤や経験による管理関連性の高いニーズ: D.3: センサによる入庫記録 DXへの取り組みが進んでいるため、C.2の課題は既にクリアされており、D.3についても既に着手済みの可能性が高い。素材の調達先には海外企業も多いため、地政学的情報も含めてC.1を分析できるソリューションを提示することが有効。

本リリースの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <https://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 武蔵野ビル5階23号室
TEL 03-5361-7880 FAX 03-5361-7881
Mail: inform@norkresearch.co.jp
Web: www.norkresearch.co.jp

NORK RESEARCH